ウッドバッジ研修所
「課題研修」支援の手引き

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

目次

１．本書について 1

２．コミッショナーの支援について.....2

３．「課題研修」履修までの流れ.....4

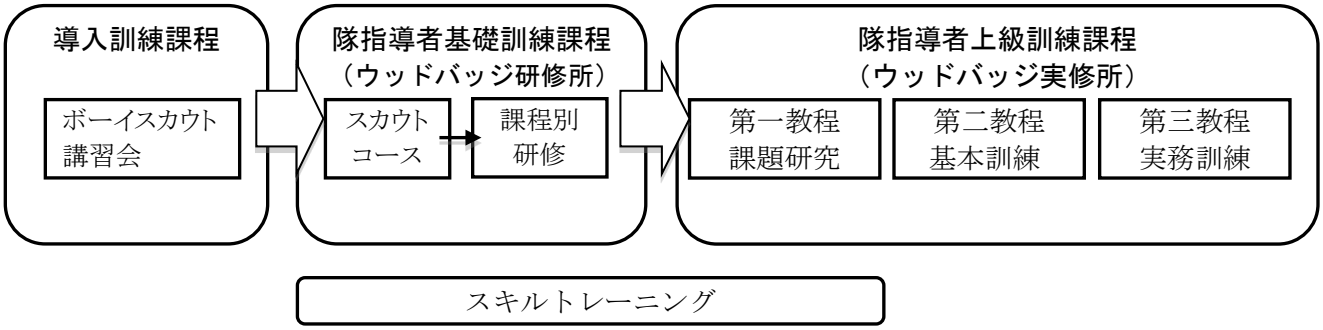
４．「課題研修」課題の指導のポイントとまとめ方 5

課題研修提出用紙.....9

１．本書について

隊指導者基礎訓練課程（ウッドバッジ研修所）は、各部門の隊指導者が共通に履修し、スカウト運動の基礎を学ぶ「スカウトコース」と、それぞれの部門の特徴を学ぶ「課程別研修」とで構成されます。

スカウトコースは参加者がボーイスカウト指導者としての責務を果たすことができるように、スカウト教育に関する基本的な内容を習得することを目的とし、課程別研修は参加者が当該部門の隊長としての責務を果たすことができるように、隊運営に関する基礎的な方法を習得することを目的とします。



ウッドバッジ研修所スカウトコースは３泊４日のテント泊、課程別研修は７時間の研修で実施し、スカウトコースと課程別研修それぞれに「課題研修」課題が設定されています。

本書は、参加者への「課題研修」課題への取り組みに対する支援についての考え方を示すものです。ウッドバッジ研修所スカウトコースおよび課程別研修「課題研修」の認定は日本連盟トレーナーが行いますが、隊指導者の任務中の支援の一部であることを考えますと、コミッショナーの皆様の支援が何よりも重要であることは言うまでもありません。

課題研修の設定と４つのねらい

ウッドバッジ研修所の「課題研修」は参加者の意欲を高め、研修での学びを自隊の活動に活かすために、次の4つのねらいがあります。

① 参加への心構えを整える 課題研修を通して自隊の現状を見つめ直し、「研修所で何を学びたいか」という明確な目的意識を持ちます。

② 研修所での学習効果を高める あらかじめ隊運営の基本を理解しておくことで、研修所での実践的な実習や話し合いにスムーズに入り込めるようにします。

③ 先輩や仲間とのつながりを作る 課題の取り組みを通じて、コミッショナーやトレーナー、地域の先輩指導者との対話が生まれ、研修後も支え合える信頼関係を築きます。

④ 自分自身で学び続ける習慣を養う 日々の活動を振り返り、自発的に工夫や改善を重ねていく、指導者としての成長のサイクルをスタートさせます。

一人ひとりに寄り添う支援

これらのねらいを達成するには、参加する指導者を一律に扱うのではなく、個別の背景（指導者経験、参加の動機、自隊の課題や悩みなど）を丁寧に聞き取ることが欠かせません。 コミッショナーとトレーナーが事前に対話を通して本人の状況を共有し、それぞれに合った温かいアドバイスと伴走支援を行うことが最も大切です。

これらを踏まえ、隊指導者の「課題研修」への取り組みが、トレーナーの支援によって効果的に進むように、コミッショナーの皆様が参加者の「支援の一助」となるよう、本書を作成いたしましたので、ご活用ください。

２．コミッショナーの支援について

課題研修は、研修所への参加資格を得るためだけの手続きではありません。参加者が課題に取り組み、団内の指導者やコミッショナー、トレーナーとの対話を重ねながら、研修所で学ぶための土台を整えていく大切な準備の過程です。コミッショナーは、この過程を参加者任せ、団任せ、あるいはトレーナー任せにするのではなく、参加者が安心して一歩を踏み出せるよう、寄り添いながら支援体制を整えていく役割を担います。

課題研修の最終的な履修認定は、日本連盟トレーナーが行います。コミッショナーは認定者ではなく、参加者一人ひとりの状況を把握し、必要な支援先や情報を提供することなど、研修前から研修後まで一貫して学びを支え続ける、いわば「伴走者」です。認定の可否そのものよりも、参加者が納得感を持って研修に臨めているか、学びを自分のものにできているかを、かかわりの中で見守ることが求められます。

参加希望者の課題研修を支援するにあたり、コミッショナーは主に次の４つの役割を担います。以下では、それぞれの役割ごとに支援の視点と心がけたいポイントを具体的に見ていきます。

①　課題に取り組みやすい環境づくり

特にスカウト経験が少なく、ボーイスカウト講習会を修了したばかりの指導者にとって、ウッドバッジ研修所への参加は決して身近なものではなく、「自分に務まるだろうか」といった躊躇や不安を抱きやすいものです。まず大切なのは、コミッショナーが本人に向けて、「なぜこの研修が必要なのか」「現地では具体的にどのようなことを学び、どのような時間を過ごすのか」を、できるだけ具体的に、かつ一度に詰め込みすぎずに伝えることです。先輩指導者の体験談や、実際の研修スケジュール、持ち物といった身近な情報を交えて話すことで、漠然とした不安を実感の伴った見通しに変えていくことができます。

その上で、本人が一人で悩みを抱え込まず、気軽に相談できる相手が身近にいると感じられるよう、地区内の指導者養成関連の委員会や県連盟トレーニングチーム、そして何よりも所属する団の理解と協力を仰ぐことが欠かせません。コミッショナー一人で抱え込むのではなく、地域や団全体で温かく送り出す雰囲気をつくることで、参加希望者は「大勢に見守られながら挑戦できる」という安心感を持って、課題研修に容易に取り組むことができる環境が整っていきます。

②　信頼を深めるコミュニケーション

指導者の資質を向上させ、各種訓練への参加を積極的に促していくことは、コミッショナーに課せられた最も重要な責務の一つです。そしてその第一歩は、一人でも多くの指導者と実際に顔を合わせ、直接つながりをつくることにあります。この課題研修は、単に認定を得るための手続きではなく、指導者との信頼関係を深めるための絶好のコミュニケーションの機会として、有効に活用することができます。

連絡の手段としては、メールや電話など手軽な方法もありますが、今後の関わりを見据えるので

あれば、できる限り直接顔を合わせて話し合う機会を持つことが望まれます。待ちの姿勢ではなく、コミッショナー側から積極的に対話の場を提案し、連絡先や都合の良い時間帯をあらかじめ明示しておくことで、指導者側も声をかけやすくなります。「いつでも一緒に取り組みましょう」という温かい姿勢を言葉と行動の両方で届け、この機会を課題研修への取り組みを後押しする追い風として、積極的に活用していきましょう。

③　個別支援担当者の選任とトレーナーとの連携

参加者が課題に取り組んでいく過程では、マンツーマンで寄り添ってくれる個別支援者の存在が、何よりも心強い支えとなります。まずは団内で誰が実際にサポートできるかを整理したうえで、最終的な履修認定を担うトレーナーへあらためて正式に支援を依頼し、日頃から進捗状況や本人の様子を細やかに共有し合う関係を築いておきましょう。

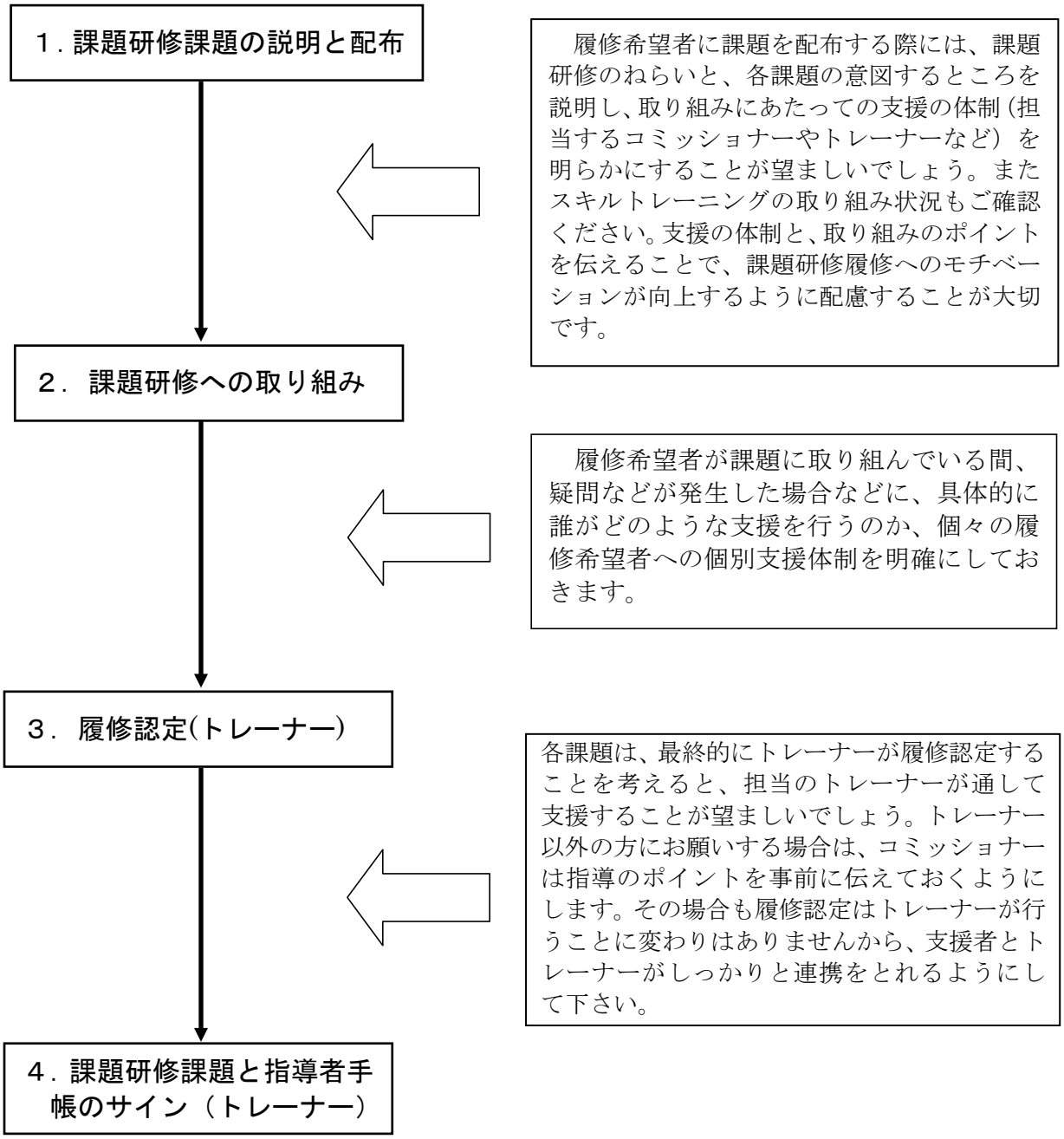
支援にあたっては、課題シートに記述する内容そのものだけでなく、研修所までの日程や持ち物の確認、先輩指導者から聞いた現地でのエピソード、研修後に自隊でどのように活動へ活かせるかといった、いわば「課題以外の情報や資料」を積極的に届けることが、本人の中に芽生える「行ってみよう」という自主的な気持ちを大きく育てる力になります。

④　研修後の歩みを支える継続支援

研修所での学びは、日常の隊活動の中で実際に活かされて、はじめて確かなものとして実を結びます。研修を終えて戻ってきた指導者には、まずコミッショナーへ一言報告するよう日頃から伝えておき、現地で感じたことや新たに発見した疑問などを、急かすことなく丁寧に聞き取りましょう。そこで得られた生の声を、コミッショナー同士の会議やトレーニングチームの研究集会等の場で共有し合うことは、地域全体における指導者養成の質を底上げしていく、大変貴重な取り組みとなります。

さらに、研修所で得た知識やスキルを、これからの具体的な隊運営にどのように反映させていくかを本人と一緒に話し合い、「ここが終わりではなく、新しいスタート地点である」という認識を共有してください。指導者として役割を果たし続けていくためには、一度の研修で満足せず継続的に学び続けることが不可欠です。今後地域や県連盟で提供される研修や学びの機会を折に触れて案内するとともに、壁にぶつかったときには「いつでも相談に乗り、支援してくれる仲間が身近にいる」ということを繰り返し伝え、本人が孤立を感じることのないよう、安心できる環境を整え続けてください。

３.「課題研修」履修までの流れ



履修認定を行うのは日本連盟トレーナーですが、参加申込書において署名を行う推薦者はコミッショナーです。
最終的な書類の確認はもちろん、受講にあたっての不安や疑問を解消し、万全の準備を整えられるよう手助けすることは、推薦者としての極めて重要な任務です。
また、研修修了後には本人の報告を温かく受け止め、現地での学びを自隊の活動へ繋げるための具体的なヒントを共に考えることが、指導者の次なるステップへの強い動機づけとなります。
コミッショナーは、研修を単なる「点」の出来事として捉えるのではなく、前後の歩みを見守る「線」として継続的に伴走する心構えを、常に大切にしてください。

４.「課題研修」課題の指導のポイントとまとめ方

（１） 《スカウトコース》課題１

世界スカウト機構発行資料「スカウト教育法（2019 対訳版）」、「日本連盟規程集」（最新の年度版）教育規程第１章一般原則を読み、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

初めて研修所に参加する指導者にとって、「スカウト教育法」や「教育規程」といった公式文書は、専門用語が多くて難解に感じられ、自身の普段の活動と結びつきにくい傾向があります。スカウト運動とは何か（基本原則）、どのような方法で展開するのか（教育法）の２部構成であり、スカウト運動独自の世界共通化したものであることを説明してください。
基本原則は文字通りスカウト運動の姿を世界統一基準として表したものです。
教育法については、「自ら学び、研鑽をしながら成長していく仕組み」であり、それには８つの要素を構成し作用させているという独自性をもっています。

スカウト教育法は「世界共通のスカウティングの土台であり、子どもたちの成長を支える独自の優れたシステムであること」を噛み砕いて伝えることが大切です。 特に核となる「８つの要素が相互に作用してひとつのバランスの取れたシステムを形作っていること」や、自発的に学び成長する「内からの教育」の仕組みについて、参加者が興味を持てるように対話を進めてください。普段の活動での体験（例：「行うことによって学ぶ」や「班制度」など）と結びつけて、研修所に入る前に「あらかじめ知っている状態」を作ることが、現地での学習効果を高めます。

また、日本連盟教育規程第１章一般原則についても「スカウト教育法」に則ったものであり、幼年期から青年期にわたる各年齢層に適応するよう教育することを各条文で確認してください。
大切なことは、これらを参加者が受容して訓練に参加するということです。この点を必ず、確認してください。

＜まとめ方＞

上記支援のポイントの説明と面談等を通じて気づいたこと、感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

スカウト教育法（2019 対訳版）のダウンロード先
https://www.scout.or.jp/member/wosm_documents/

（２） 《スカウトコース》課題２

スカウティング・フォア・ボーイズの第Ⅸ章、第Ⅲ章、第Ⅰ章、第Ⅱ章の順番に熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

スカウティング・フォア・ボーイズは、本運動を行ううえでは欠かせないものだということを確認していただきたいと思います。スカウティングの本質がすべてこの本に集約されています。

Ｂ－Ｐ が経験したこと、見聞したこと、伝えたい思いや次世代を担う人々への願いなどが短いお話で綴られています。物語をもとにしたゲームやハイキング、キャンプ、「班練習」として訓

練のヒントも例示されています。工夫次第で、スカウト達が心を躍らせる楽しいプログラムを提供できることを知らせてください。現代普及している「オリエンテーリング」や「ネイチャーゲーム」、「ローインパクトキャンプ」や「エコプログラム」など･･･現代のプログラム作りにもそのまま活かせるアイデアに満ちています。プログラムのヒントは、ここに記されているということを発見し、理解が深まるように確認してください。

スカウト運動の原点の理解を深めること、そして、ちかいとおきてや、パトロールシステム、スカウトスキルについても挿し絵を通して平易に書かれていること、つまり私たちの活動のすべての原点がここに集約されていることを確認してください。下記章を、第Ⅸ章→第Ⅲ章→第Ⅰ章→第Ⅱ章の順番に熟読していただくように話をしてください。本書は少年向けに書かれたものですが、成人が読む場合に望ましいと思われる順番としています。

第Ⅸ章「公民としての私たちの義務」
この活動の根底にあることが書かれています。

第Ⅲ章「キャンプ生活」
野営生活（野外活動）を通して、スキルを身につけ成長していくことが書かれています。

第Ⅰ章「スカウト技能」
活動する際の知識、技能、方法などが書かれています。

第Ⅱ章「旅」
プログラムの実施、展開方法などが書かれています。

順番に読むことによって、容易に活動の流れが理解できるようにと考えています。

活動の根底にある「他者や社会へ奉仕する心」や「野外での体験を通した個人の成長」への理解を深めますのでできるだけすべての章を読むよう指導をしてください。

＜まとめ方＞

スカウティング・フォア・ボーイズを読んだ感想に対して、指導、アドバイスをしてください。面談等を通じて気づいたこと、感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

（３）《スカウトコース》課題３

スキルトレーニングにおいて以下の細目を履修し、指導を受けた内容を記述してください。

（１）ロープワーク

本結び、もやい結び、巻き結び、ねじ結び、引きとけ結び、角しばり、筋かいしばり

（２）地図とコンパス

１６方位と方位角の呼び方を覚えプレートコンパス（シルバコンパス）を使用することができる。

（３）刃物の取り扱い

ナイフの正しい使い方と安全について説明できる。

（４）野営技能

- 家型テントの設営、撤営と維持管理ができる。
- フライテント（タープテント）の設営、撤営と維持管理ができる。
- 班の炊事に適する２種以上のかまどを使い薪で炊事ができる。

【支援のポイント】

スキルトレーニングは、スカウトへの指導能力を高める、隊指導者のプログラム推進能力の幅を広げることを目的に設けられました。導入訓練課程修了後から履修認定を受けることができます。指導者がすでに身につけている内容についてはトレーナーの認定等により履修を認めます。

本来は指導者が自主的に取り組みトレーナーの認定を受けるもので、あくまでも定型外訓練に出なければ認められないというものではありません。

上記、課題３においてのスキル細目については、スカウトコース参加にあたり、最低限、必要となるスキルです。

スカウトコースでは全日程テント泊となります。野営生活を通じて適切な訓練効果を上げるためにも、全ての参加者には課題３のスキル項目の履修は必要となります。

参加者によっては全く経験していないなど随分差が出てくるところだと思います。

すでに細目の履修認定がされている場合でも、不安がないか再確認をしてください。課題研修として初めて取り組む参加者の方には、スキルに対する不安を少しでも下げることができるよう丁寧な指導を直接行っていただくようお願いします。スキルを覚えることで野外で楽しい活動が安全にできることをお伝えいただけるようお願いします。また、ボーイスカウト スカウトハンドブック、その他スカウトライブラリー等の書籍を十分活用していただくよう、ご配慮をお願いします。

最後に、研修所参加が初めての指導者には、会場までの交通手段や施設、気候に応じた持ち物や研修所での生活についての情報を伝えて、不必要な緊張や、不安を抱かないようにご配慮ください。

＜まとめ方＞

スキルトレーニング実施後、覚えたスキルがどの様な場面で使うのか実際の活動イメージを説明して下さい。面談等を通じて気づいたこと、感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

（4）《課程別研修》課題１

当該隊リーダーハンドブックを熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

「課程別研修」は、指導者が身につけるべき共通の内容を取り扱い、個別の課題については取り扱いません。

「Ｈｏｗ　Ｔｏ」を身につけることを主とした研修で、当該部門の隊運営に関する基礎的な方法について学びます。

参加者によっては、スカウトの数が少ないなどの理由により、隊長ハンドブック（リーダーハンドブック）等に記述されている方法や手順の通りではないといったケースも多々見られることと思います。

スカウト運動の目的を達成するためには、年代に合わせてスカウト教育法の各要素がバランスよく組み込まれた活動であることが必要ですので、最も効果的に展開できる組織と手順が基本となる標準としてハンドブックには記述されています。本研修での学び・理解が深まるように、一緒に確認をして下さい。

スカウトは一人ひとり異なる「個性」を持っていますし、隊を取りまく環境もそれぞれ異なっているため、隊の運営にあたっては様々な方法や手順があることが自然です。「ハンドブックの通りではないので間違いである」ということではなく、「より効果的にスカウトの成長を支援するため」、また、「より効率よく同じ効果を挙げるため」には標準を理解することが重要です。

ただ、読んでおくようにと促すだけでなく、当該部門の運営方法・プログラムプロセスなどについて、話し合う機会を持って一緒に確認をして下さい。

＜まとめ方＞

自隊との違いについて明確にしてください。その上で、指導やアドバイスをし、その後の感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

課題研修提出用紙

ウッドバッジ研修所 スカウトコース
「課題研修」

＿＿＿＿＿＿＿＿課程　　提出日：　　年　　月　　日

ふりがな		性別	
氏　名			
所　属	……連盟（……地区）……第……団……隊 役務 ……		

課題研修	指導をした人 役務・氏名
課題１ 世界スカウト機構発行資料「スカウト教育法（2019 対訳版)」、「日本連盟規程集」(最新の年度版)教育規程第１章一般原則を読み、指導を受けた内容を記述してください。	
課題２ 「スカウティング・フォア・ボーイズ」の第Ⅸ章、第Ⅲ章、第Ⅰ章、第Ⅱ章の順番に熟読し、指導を受けた内容を記述してください。	
課題３ スキルトレーニングにおいて以下の細目を履修し、指導を受けた内容を記述してください。 ※細目について別紙「課題研修まとめ用紙」を参照。 （１）ロープワーク （２）地図とコンパス （３）刃物の取り扱い （４）野営技能	認定を受けたトレーナー （１）＿＿＿＿＿＿ （２）＿＿＿＿＿＿ （３）＿＿＿＿＿＿ （４）＿＿＿＿＿＿

課題研修を履修したことを認定します。

年　　月　　日

認定トレーナー署名（ＬＴ・ＡＬＴ）（氏名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿



「課題研修まとめ用紙」

課程　　氏名：

課題１	
課題２	
課題３	（１）**ロープワーク** 本結び、もやい結び、巻き結び、ねじ結び、引きとけ結び、角しばり、筋かいしばり （２）**地図とコンパス** １６方位と方位角の呼び方を覚えプレートコンパス（シルバコンパス）を使用することができる。 （３）**刃物の取り扱い** ナイフの正しい使い方と安全について説明できる。 （４）**野営技能** ・ 家型テントの設営、撤営と維持管理ができる。 ・ フライテント（タープテント）の設営、撤営と維持管理ができる。 ・ 班の炊事に適する２種以上のかまどを使い薪で炊事ができる。

※各課題について指導を受けた内容を記述し、申込書と一緒にご提出ください。

ウッドバッジ研修所 課程別研修「課題研修」

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿課程　　提出日：　　年　　月　　日

ふりがな		性別	
氏　名			
所　属	＿＿＿＿連盟（＿＿＿＿地区）＿＿＿＿第＿＿＿団＿＿＿＿隊 役務 ＿＿＿＿		

課題研修	指導をした人 役務・氏名
課題１ 当該隊リーダーハンドブックを熟読し、指導を受けた内容を記述してください。 ※ベンチャースカウト課程はスカウトハンドブックアドバンスも熟読する。	

課題研修を履修したことを認定します。

年　　月　　日

認定トレーナー署名（ＬＴ・ＡＬＴ）（氏名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿



「課題研修まとめ用紙」

課程　　氏名：

課題１	・ハンドブックの内容と自隊との違い
	・指導やアドバイスの内容
	・指導後の感想

※課題について指導を受けた内容を記述し、申込書と一緒にご提出ください。

ウッドバッジ研修所「課題研修」支援の手引き

平成３１年２月　　発行
令和３年１月３１日　　一部改訂
令和３年３月５日　　一部改訂
令和８年９月　　一部改訂

日本連盟トレーニングチーム　編

発行　公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN